

## 指定管理者評価シート

## 一 管理運営の状況

1	施設名	せんだいメディアテーク
2	指定管理者	公益財団法人仙台市市民文化事業団
3	指定期間	平成24年4月1日～平成29年3月31日
4	施設の利用状況	<p>《利用者数》 419,272人（前年度比 93.7%） 施設貸出利用者：447,536人（H27年度），447,536人（H26年度），464,222人（H25年度）</p> <p>《事業》 上記の施設貸出の他、情報サービス事業、デジタルアーカイブ事業及び活動支援事業を行っている。 ○情報サービス事業 ・映像音響ライブラリー 貸出件数 71,454件 ・視聴覚障害者情報ライブラリー 貸出件数 2,801件 ○デジタルアーカイブ事業 ・「3がつ11にちをわすれないためにセンター」 など ○活動支援事業 ・としょかん・メディアテークフェスティバルー対話の可能性 ・バリアフリー音声パソコン講座 など</p>
5	収支の状況	<p>《費用》 （ ）は前年度決算額</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>指定管理者に支払った費用 546,297千円（561,981千円）</li> <li>その他市が負担した費用 19,345千円（ 8,360千円）</li> </ul> <p>《収入》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>使用料収入 71,406千円（79,510千円）</li> <li>その他収入 2,839千円（ 2,812千円）</li> </ul>
6	利用者の声	<p>《実施状況》 平成27年12月に、施設の利用者にアンケートを実施した。アンケートは、各質問項目について5段階で評価されている。「職員対応」については、8割以上の方から「とても満足」・「満足」の評価をいただいております。その他の項目についても同様に8割以上の方が「とても満足」・「満足」と回答している。</p>

## 二 管理運営に係る評価

(モニタリングシートの結果によって評価)

評価分野	所見	評価
I 総則	職員は施設の設置目的を理解しており、施設運営や事業実施に活かされている。また、市民活動や外部機関と連携した事業が積極的に行われている点も評価できる。	S
II 施設の運営管理体制	災害発生時の誘導體制や、施設内で事故が発生した場合の連絡体制が非常に明確になっており評価できる。個人情報保護・情報セキュリティ・事故対応のための研修など、年間を通じて、各種研修を実施し、施設の運営管理を適切に行えるよう努力している。	S
III 施設・設備の維持管理	年間100万人もの利用者がある施設だが、施設内外の美観を保つための高い努力がなされており、施設の保守点検や清掃などが適切に行われている。また、警備員の巡回も適切に行われており、利用者へ安全で安心感のある環境を提供している。更に、空調設備の省エネ運転や、トイレの節水対策を行うなど、仙台市環境行動計画に則った取組みを確実に行っている。	S
IV サービスの質の向上	施設利用者が使いやすいように、窓口やHPでの情報提供方法に工夫をしており、施設利用率も高い。利用者からのご意見やアンケート結果は、職員が情報を共有し改善に努めており、事例の公表の取り組みも開始している。	S
V 施設固有の基準	施設貸出や使用料徴収などの管理業務は適切に行われている。特にギャラリーの申込については、利用者間の日程調整を綿密に行うことにより、ほぼ100%の利用率となっている。資料の貸出については、図書館と連携し利用促進に努めている。	S

### 三 その他特に評価すべき優れた取組み

(指定管理者の優れた取組みを評価する 加点要素)

評価すべき取組み		取組み状況
1	3がつ11にちをわすれないためにセンター	せんだいメディアテークを拠点として、市民、専門家、メディアテークの協働により、東日本大震災からの復旧・復興のプロセスを市民自らが独自に記録するとともに、集積されたさまざまな記録(映像、画像、音声、テキストなど)を発信している。また、収集した記録を未来に伝えるため、アーカイブ化を進めている。 震災直後の平成23年5月に開設し、平成28年3月末現在、センターへの参加者は173名、収集した映像は1,089本、画像は約52,091枚、特設ウェブサイトの合計再生回数は1,307万回(日本語・英語両サイト合計)を超えている。平成25年度から参加者作品のDVD化と館内視聴・館外貸出サービスを開始し、51本が配架された。
2		
3		
加点評価		A

### 四 評価総括

《指定管理者（公益財団法人仙台市市民文化事業団）による自己評価》	
<p>施設利用について、27年度は前年度に比べ利用率及び施設使用料ともほぼ横ばい状態でした。指定管理料については、耐用年数を超え、また経年劣化等により修繕の範囲を超える不具合も発生しましたが、予算内で対応することができました。</p> <p>光熱水量費では使用量を前年比マイナス2%の目標を掲げ、空調設備の運転見直しなどにより目標を達成するとともに、契約の見直し等を行い経費削減にも取り組みました。また、複数年契約等により委託費、賃借料の抑制にも努めました。</p> <p>映像音響ライブラリーにおいては、資料貸出やレファレンス、ボランティアと連携した障害者向けサービスなどのライブラリー業務に併せ、来館者の様々な問い合わせに的確で丁寧な対応に努めてまいりました。また、事業記録や地域文化アーカイブなど自主事業と連携し、資料の公開、提供を行ってきました。</p> <p>自主事業については、メディアテークの特徴であるスタジオ機能をいかした協働事業を活用し様々な事業を実施しました。展示会は「物語のかたち 現在に映し出す、あったこと」と題して、スタジオ活動の成果である東北伝承の「民話」を題材にして漫画家や美術家が制作した作品や、民話の記録等を展示しました。また展示会の記録を含め、東北における芸術や文化の現況を広く紹介するツールとして機関誌「ミルフィユ」を発行しました。スタジオ協働事業は、「考えるテーブル」を中心とした対話型の公開会議の開催や7階ラウンジを活用した展示に加え、「メディアスタディーズ」として公募したアートやメディアにまつわる様々な文化活動との協働をおこないました。地域文化アーカイブでは地域文化資料のデジタル化を行い、ライブラリーへの配架と保存、ウェブサイトでの発信等により、広く市民が活用できる「財」としました。さらに館長を軸としたトークシリーズの実施や地域文化団体との連携事業などの実施により、メディアテークの特性や総合的なアクセス機能の活性を促すなど、時勢に応じた魅力ある事業の展開に努めました。また、自主事業を実施するにあたっては、(一財)地域創造をはじめ、(公財)花王芸術・科学財団等多くの助成団体からの外部資金の調達にも努めました。諸般の情勢が厳しい中、今後も助成金の獲得に努め、活用していきたいと考えております。</p> <p>危機管理については、年2回実施する火災・地震訓練に東日本大震災での経験と教訓を活かし、市民図書館の協力も得ながら危機管理マニュアルを再点検するなど危機管理に対する意識の強化に努め、利用者の安全を第一に運営してまいりました。また、訓練等を通じて対応能力の向上を図るため、より実践的な訓練も併せて実施しました。日常的な来館者の緊急事態に対しては、応急処置等を含め適切で素早い対応を行いました。静養室(救護室)は、現在の利用状況をリアルタイムで確認できる館内システムで運用しており、館全体の職員の共通報報として活用しています。</p> <p>利用者アンケートについては、当財団内共通項目でのアンケートを作成し、有料施設利用主催者及び展示会入場者に対して、アンケートを実施しました。集計結果は今後の運営に活用するとともに、当財団のホームページにて公開しております。利用者からは、概ね満足をいただいている結果となりました。また、受付等に寄せられたお客様からのご意見については、利便性の向上に向けた改善に努めるとともに業務日誌への記載や職員への周知を行い、適正かつ円滑な施設運営の資としております。併せて、意見箱を設置し、寄せられた意見に対し、改善等を明記し掲示を行っております。</p> <p>施設管理については、職員間での情報共有による適切な管理を行い、警備・清掃・設備をはじめとする委託業者との連携を密に行い、適切かつ安全な運営に努めております。</p>	

《施設設置者（仙台市）による評価》		総合評価
<p>せんだいメディアテークは、市民図書館との複合施設ということもあり、年間約100万人の利用者があるが、常に施設内外の美観を保ち、利用者が快適に利用できるよう努力している点が評価できる。貸出施設においては、公平な施設使用許可の取扱や利用者に対する適切な支援の下、ギャラリーをはじめ高い利用率が維持されている。施設使用時のきめ細かいアドバイスなどにより、当該施設が市民の生涯学習活動の場として支持されているものと思われる。</p> <p>活動支援においては、他施設にはない専門性を活かして、本市他部局や大学、NPOなどの団体とも積極的に連携・協力しており、本市における生涯学習・文化芸術支援の拠点としての役割を担っているものである。</p> <p>バリアフリー事業においては、情報サービスを行う一方で、映画の音声解説や日本語字幕制作の養成講座を行い、実践の場として、受講生がボランティアとしてバリアフリー上映を開催するなどの企画も実施している。</p> <p>自主事業においては、施設特性や専門性を活かした企画展示の実施、地域における映像文化の振興、定禅寺通りに面した立地を活かした通りを舞台とする様々な市民文化活動への積極的な参加・協力、仙台・宮城ミュージアムアライアンスにおける館間連携の促進など、地域での生涯学習や芸術文化の振興に貢献しているものである。</p> <p>平成27年度は、東日本大震災の影響から落ち込んでいた施設利用率が前年度に引き続き上昇し、これまでのノウハウを活かし滞りなく施設運営することができた点、かつ震災後の社会的なニーズを踏まえた「考えるテーブル」「3がつ11にちをわすれないためにセンター」等の事業を継続・発展させながら実施できた点が評価できる。</p> <p>以上、せんだいメディアテークの管理運営を担う当該財団による事業運営は、これまでの運営実績により蓄積された高度な専門性と知識、外部協力者やボランティア活動との良好な関係に基づき、多様な市民の生涯学習活動における要望に適切に対応し積極的にサービス向上に取り組むなど、施設設置目的に沿った管理運営を実施しているものと評価できる。</p>		S

◎ 評価担当課（施設所管課）：教育局生涯学習部生涯学習課